

筑後川まるごとリバーパーク

モデルツアーの報告

2006～2019

筑後川新聞から

2020/04/21
筑後川入道

2006年11月2日



志林集題。四庫全書總目卷一百一十五



に口腹を「もてなす」に由来、文政の
頃に使われ、

[illegible]

大分県立総合文化センター 大分県立総合文化センター 大分県立総合文化センター

②上流域モニターツアー

紅葉の
筑後川源流めぐりと
水郷日田の街並み、
温泉を訪ねて

[illegible]

0000 0000 0000 0000

[illegible][illegible]

國産品にありぬる高麗、立派な花紋を施した上蓋
にへ、平蓋よりかなり早く日本酒類(山陽館)に運送
のつくりと人格や物産を伝へた。氏則は家業である
資料館を味ひながら交遊を樂め、最後はのちオセロも
愛するまであがりなりで、氣持よく海老の紅顔アデーを満
ちてくつた。

政治小説の発展 政治小説の発展 政治小説の発展

2007年10月13日

REPORT

筑後川まるとりパークモーターツアー

「八女の伝統工芸・工房めぐり」

10月13日(土)のモーターツアーには、佐賀市、大分県日田市、北九州市、春日市、朝倉市、久留米市から26人が参加。午前9時30分に西鉄久留米駅前を出発した一行は秋晴れの空の下を八女へ向かいました。

八女地方は清らかな矢部川のほとりに開けた歴史の深い街で、多様な伝統工芸産業で栄えた街としても有名です。今回のツアーには、八女周辺の様々な伝統工芸の工房をめぐりました。今回訪れた4つの工房はいずれも現場の作業場で、まだ見れない所ばかりでした。

最初に訪れた八女町の久留米組上屋の「山脇」では重要無形文化財技術保持者の山村省三さんから、久留米組が出来たまでの詳しい話を聞き、新築めの体験もできました。次に星野川を遡るのぼり、上陽町の山あいにある「緑香八車場」に行きました。杉の葉を大きな水車で碎き粉にして線香の材料としています。「ゴットンゴットン」と迫力のある車車の動きに舌鼓打っていました。

お昼には八女編島の白壁の街なみを散策し、江戸末期築150年の古い趣のある町家で昼食をゆっくりとり、参加者同士の交流もしました。昼食後、市内の矢部川のほとりにある、400年の伝統を誇る「八女手すき和紙」の工房へ行きました。ここでは伝統を受け継ぐ家族の手によって和紙をつくる一連の工程が進められている様子がよくわかります。次に、「八女提灯」の工房へ行きました。ここでは提灯の骨組みに薄紙を貼る作業が行われ、参加者は興味津々でした。

工房めぐりの最後に、「八女伝統工芸館」を訪れ、八女手すき和紙の体験コーナーで、和紙のうもや、たくさん、名刺などをつくりました。参加者は、口々に「楽しい工房が見れて、体験もできて良かった」と話し輝きにつつましかったです。

「筑後川まるとりパーク運営委員会 福岡 康成」

久留米組工房で伝統的作業を手に

手すき和紙の作品を手に

八女手すき和紙体験

八女提灯

緑香八車場

久留米組

昼食の時間

2007年11月18日

REPORT

高取川リバーパーク
モニターツアー

陶の里・小石原と伊藤傳右衛門と 白蓮の宝珠山炭坑倶楽部を訪ねて



▲宝珠山の山門

11月18日(日)のモニターツアーは、陶の里・小石原且山と、かつて石炭で栄えた宝珠山の山村文化交流の郷「いぶき館」を訪ねました。車窓から筑後川沿いの早稲穂、稲穂を眺めながら東峰村小石原へ。小石原には、高取焼と小石原焼があります。高取焼は茶陶器類の作品が多く、気品に満ちあふれています。小石原焼は生活雑器が多く、焼びカンナ、剛毛目、夢目などの伝統技法で造られた作品は素朴で温かきを感じます。最終、小石原にある「高取焼窯」

に寄り、十三代高取八山さんに説明と案内をしていただきました。その後、小石原且山へ。且山と国道211号沿いに窯元が集中しており、全部で50軒ほどあります。小石原伝統産業会館で、参加者に小石原焼の体験をしていただくプランでしたが、天気もいいし、紅葉がとてもきれいということもあってなのか作陶体験をする人が少なかったのがちょっと残念。秋の陽ざしに映える紅葉を見ながら、窯元巡りを楽しみました。

昔、高取山に入山する修験者が杉の籠を植えたものが育ったといわれる杉の巨木群「行者の杉」(樹齢200年～600年)を散策しながら、食事処「惣助」へ向かいました。昼食の「やまめの塩焼き付き山菜定食」に舌鼓をうちました。

午後、石炭王・伊藤傳右衛門と歌人・柳原白蓮ゆかりの山村文化交流の郷「いぶき館」を見学しました。ここは傳右衛門の邸宅の一部を修築して宝珠山炭坑倶楽部として使っていたものを復元したものだそうです。名優・高倉健展も開催されていました。その後、原鶴温泉「六峰館」で温泉を楽しみ小旅行の疲れをとりました。「内容が充実したツアーで、楽しめました」と参加者からの感想がありました。(筑後川まるごと博物館 学芸員 平田 昌之)



▲惣助で体験をする参加者
(小石原伝統産業会館にて)



▲高取焼窯を訪ねて



▲田口(高取焼窯)



▲高取川をバックに全員写真



▲宝珠山炭坑倶楽部で復元した「いぶき館」



▲惣助(高取焼窯)

2008年2月24日

REPORT

筑後川中流域
リバーパーク
モニターツアー

筑後吉井白壁の街・おひなさまめぐりと原鶴温泉

2月24日(日)のモニターツアーは、白壁の街・うきは市吉井町と原鶴温泉を訪ねました。暖かい陽ざしのもと、白壁土蔵の町並みをゆっくり散策しながらおひなさまめぐりができればいいな～と思っていましたが、あいにく朝から小雪まじりの寒い日になってしまいました。町内の旧家や町の人々が所蔵する、江戸時代から現在までの豪華なものから珍しいもの等、数多くのおひなさまが各家々や陶店、旧家、公共施設に飾ってあります。



▲今もなおぬくもりある古館



▲おひなさまめぐりを楽しむ



▲珍しい箱びな

一軒一軒、特色あるおひなさまを楽しみながら見てまわりました。特に、箱びなや、押絵籠「おきあげ」など珍しいおひなさまに人気があつまりました。

つぎに、原鶴温泉の大峰館にて筑後川の川面に激しく降りつける雪を見ながら昼食。昼食後、美肌の湯をゆっくり楽しみました。「こんな寒い日は温かい温泉の湯船にゆっくりつかり温まるにかぎる」との声。

その後、ボランティアガイドの案内で吉井町の日ノ岡古墳、月の岡古墳と珍塚古墳を見学。日ノ岡古墳には同心門が描かれ、珍塚古墳には舟や動物の絵が描かれており古代のロマンを感じることが出来ました。

最後は、耳納山麓の紅乙女焼酎工場とワイン工場を見学。美味しい胡麻焼酎と巨峰ワインの試飲を楽しみ、おみやげを買って帰途につきました。「楽しかったけど、寒かった～」とツアー参加者の感想。

(筑後川まるごと博物館 学芸員 平田昌之)



▲紅乙女前にて全員集合



▲珍塚古墳の説明を聞く



▲押絵籠「おきあげ」

2008年2月8日・9日

筑後川下流まるごとリバーパークモニターツアー

筑後川大川・クルーズ 裸ん行火祭り



その後、ワッショイワッショイの掛け声で、大川船渡宮までの3kmを駆け抜けて行く「裸ん行」の若者達の雄姿にツアーの一行も声援を送っていました。

筑前川の二川屋で夕食のメニューには、有明海のクナゾコやタイラギの珍味が出され、我が町の流域の自慢話や筑後川の歴史やこれからの観光の有り方で盛り上がりモニターツアーならではの交歓会となりました。

翌日は、若津港より筑後川クルーズに出発しました。デレーケ摩崖を横目に昨年「日本国産遺産」に認定された界隈をくぐり抜け、諸富町の「味の素」工場を見学しました。昭和18年創業のこの工場は、福岡ドーム7個分の広大な敷地で調味料を始め、色々な食品が製造されています。歴史コーナーでは、中興年代には苦なつかしい商品にくぎづけになり、世界の「味の素」を再認識させられました。

次に日本赤十字社の創始者である佐野常民の業績を記念した川原町の佐野常民記念館を訪れました。明治時代の日本を代表する偉人であり、その多岐にわたる偉大な業績に誰もが感動していました。また、館長「ボラシテア」の福岡氏の熱弁もあり、観光地には、ボラシテアガイドは無くても十分なファクターであることが実感しました。

そして、再度舟渡の船に乗り込んだところ、船頭でもある本原船長からシカの焼肉やカニの焼き肉など予期せぬ大盤振舞をしていただき、ツアー客は大喜びでした。下流と有明海の船旅には、うなぎ・エツ・カモ料理など年中通して「恒の味」を楽しむプランがあることを本原船長から聞かされ、船内は一段と話が盛り上がり、次回の下流ツアーに期待がふくらみ、旅する喜びをかきたてるまさに心への火祭りツアーとなりました。

（参加者 古賀秀之）



2008年4月19日

筑後川上流域リバーパークモニターツアー

筑後川上流

滝めぐりツアーが実施されました。

4月19日(土)「筑後川上流域モニターツアー」/滝めぐりは、数日前の雨も上がり天気に恵まれ、親子連れや学生達など28名の参加で行われた。最初の滝は、天瀬温泉近くの「板滝」。

山里の道を歩くこと数分。江戸期より「酔け散る」と花の「とし」と賞賛された、名滝に到着。一同初めて見る滝の見事さに感嘆の声をあげていた。

次いで大蛇伝説で知られる「慈恩の滝」へ。車道やJRの車内からも見えるこの滝、別名裏見の滝とも呼ばれ、滝の裏側に入れることでも有名。全員水しぶきに濡れながらスリルに満ちた滝の裏側からの眺めに歓声をあげた。小松女院の悲恋伝説のある「三日月の滝」を車内から眺めながら、国指定の名勝、「竜門の滝」へ向かう。食事処「竜門茶屋」で、名物の鴨そば定食と山女魚の塩焼きに舌鼓をうち、竜門の滝を鑑賞する。

続いて「九重夢大吊橋」へ行く予定だったが、交通混雑で九酔峡が通行止めになったため断念。迂回して九重高原の泉水橋へ向かう。全員歩いて奥郷谷の絶景と真近に迫る九重連山の眺めを十分に楽しんだ。

予定よりも時間に余裕があったので、玖珠町から耶馬溪へと向かう。新緑に映える奇岩と溪流。参加者は耶馬溪の見事な景観に見とれていた。一目八景から耶馬溪ダム湖を経て、山国川の清流沿いへ、日田ICを出て帰路に着く。大吊橋からの眺めを見る事は出来なかったが、源流域の滝と山里の味、新緑の耶馬溪を満喫したツアーだった。

(筑後川まるごと博物館

副館長 成毛 克美)



板滝



竜門の滝



慈恩の滝



茶屋で昼食

大吊橋から見る九重の滝・雄滝
(この景観は次回へ持ち越しとなりました)

2008年3月14日

遠賀川水辺館リバーツーリズム

筑後川、柳川のお雞様とさげもん巡り

3月14日、川の歴史と文化を探る旅、第39回「遠賀川水辺館リバーツーリズム・筑後川、柳川のお雞様とさげもん巡り」は観光ボランティアの古賀さんの手作りとユーモアたっぷりの魅力的な案内のお陰で「何回か柳川に来たけど、今日がいっちゃんよくわかった」と参加者から口々に感激の声。

嬉しい一日でした。御花で待ち合わせ、館内のお雞様とさげもんにつとり。そのあと、資料館「殿の倉」を案内して頂いた。

お昼は名物のうなぎのセイロ蒸し、待つこと15分、その間のんびり川下りの方々に手を振り、後、白秋の碑を守るからたちの大きなとげにびっくり！「からたちの花」をくちずさみつつ歩き干漏の豊かさに感激。お土産は有明のり、うなぎあめ、お茶…帰りのバスは名産品でいっぱい！鍋田さん、古賀さんありがとうございました。

(NPO法人直方川づくり交流会 今井由美子)



沖の帰漁港にて

2008年3月16日

松原ダム・下笠ダムツアー

南部「いきいき」シイタケづくり シイタケコマ打ち体験会開催!!

松原ダム・下笠ダム水源地域ビジョン実践
センター松原分科会では3月16日(日)に日田
市大山町で「南部「いきいき」シイタケづくり」シ
イタケコマ打ち体験会を開催しました。

当日は久留米地区などから11組31名の親子
連れがまつばら館に集まり、水源地域の山に
入って、シイタケのコ
マ打ち体験を行いました。
地域のお母さん方
の手作りの昼食を楽し
んだ後に松原ダムの堤
体見学やダム湖巡視体
験を行い、あたたかな
春の休日を存分に楽し
みました。

松原ダム周辺分科会
では今後も水源地域の
自然を利用したイベン
トを開催していく予定
です。

(株)株式会社 建設環境研究所 九州支社 室 かわり



2008年2月24日



2008年8月24日

筑後川中流域 リバーパークモニターツアー②

～夏の風物詩・「田主丸の巨峰狩りと 原鶴温泉のう飼い」を楽しみませんか～

美しく緑に輝く耳納連山。北麓に広がる田主丸は巨峰のまち。
耳納連山からの涼風と旬の巨峰を味わいませんか。
夕やみせまるころ、原鶴温泉の美肌の湯と美味しい料理、
そして屋形舟でう飼いを楽しみませんか。
筑後川の川面の涼風と新鮮なアユが皆様をお待ちしております。



期日 8/24 (日)	西鉄久留米駅 日本生命ビル前	13:45発	原鶴温泉出発	21:15
	田主丸巨峰園(巨峰狩りー巨峰ワイン工場等見学)	14:10	西鉄久留米駅 日本生命ビル前	22:10
	原鶴温泉「六峰館」(温泉入浴・夕食・交流会)	17:30	★会費 6,000円(宿泊希望は別途料金 6,000円 朝食付き)	
	屋形舟にてう飼い見学	20:00	★申し込み・連絡先 (株)西日本旅行 ☎0942-32-8383(担当:江越)	

2008年7月26日

筑後川上流域リバーパークモニターツアー

「日田祇園祭」と民陶小鹿田、 天領日田の街並を巡る

7/26(土)、「祇園祭」が開催されている日田周辺を巡るモニターツアーを実施した。当日は、久留米大の行事とも重なり、参加者は13名と少なかつたが、日田の祭りと文化、食を存分に楽しんだツアーとなった。

まず天領の街並、豆田町では国指定文化財の華麗な山鉾四基が集合し、祇園はやしが優雅に流れる巡行を見学。その後、小野川沿いの木造精米水車や河川プールといったの里などを見ながら小鹿田に到着。バーナード・リーチや柳宗悦とも交流のあった坂本茂木さんの解説で、民陶の里、小鹿田をゆっくりと見学。唐臼の音に耳を傾けながら九州唯一の国指定文化的景観の山里を巡った。

次いで日田市内の「久兵衛茶屋」を訪れ、桐原白蓮の物語でお嫁入りした女将の解説を聞き、川を見渡す大広間を貸し切つての豪華な昼食を味わった。食事後は、全国でも屈指の環境共生工場「サッポロビール新九州工場」を見学。出来たての生ビールを存分に試飲した。ほろ酔い気分で、三隈川のせせらぎを散策して川沿いの「甕山亭」の温泉に入浴。水郷日田を一望する、八幡の展望温泉で疲れを癒した後は、隈地区の10m近い山鉾の巡行を見学した。

全員、夜の晩山を見物するため、豆田町の古い蔵のそば屋で夕食。ポリウムたっぷりの夕食後は、提灯で飾られた見事な山鉾四基が花月川に影を写して巡行する幻想的な光景を見学して帰路に。

天領日田の多様な歴史と文化、食を満喫したツアーとなった。(成毛 克実)



2008年8月10日

筑後川下流域リバーパークモニターツアー

筑後川クルーズ観光船

大川花火大会と 天然ウナギ試食ツアー

8月10日、筑後川クルーズ観光船による恒例の大川花火大会に、福岡市・筑後地区、遠くは東京・ブルガリアなど海外を含め、約60名のツアー客が参加しました。今回は特に、筑後川下流の天然ウナギの試食会に例年以上の参加者がありました。

午後3時30分から、参加者は天然物のウナギの塩焼きやかば焼きの独特のタレのおいしさに舌鼓をうち、5kg用意したウナギは、あっという間になくなりました。午後6時から観光船に乗船し、厳しい暑さのなか、筑後川の川風をうけ、ビール片手に弁当を食べながらひとときのクルーズを楽しみました。

そして、いよいよ午後8時と同時に一発目の花火の轟音が、下流に響き渡り、仕掛け花火や色とりどりの花火の連発に、船内からも感動の歓声が連発し続けていました。

花火大会が終了すると、船頭さんの「むつてろっこの愛のキューピット」の話が始まり、普段聞くことができない下流の筑後川観光船ツアーならではの話でした。また「鹿の燻製」の飛び入りの大サーブスもあり、うれしいハプニングに、ツアー客は満悦至極でした。(土賀 秀之)



2008年8月24日

筑後川中流域 リバーパークモニターツアー

夏の風物詩・

「巨峰狩りとう飼い」を楽しむ



だ。甘くて美味しい巨峰、旬の味を味わいながら中野さんのブドウに対する思いを聞き巨峰狩りを楽しんだ。

次に巨峰ワイン工場と胡麻祥村・紅乙女工場を訪ねた。ワイン地下貯蔵庫、焼酎貯蔵庫、良山荘など楽しい説明を聞きながら見学した。試飲のワインと胡麻祥村も美味しくいただいた。その後、美肌の湯・原鶴温泉の六峰館で筑後川を眺めながら「お湯」と「食」をゆっくり楽しんだ。

夕やみ迫り川面に涼風が吹き始めるころ、屋形舟へ。船匠にあやつられた鴉たちは水中にもぐりアユをくわえてあがつてくる。見学者から拍手がおこる。う飼いのかがり火と屋形舟のぼんぼりの灯りに照らされた水面を舞台とする鴉たちのショーも楽しめた。(平田 昌之)



紅乙女「ランビック蒸留機」

ワイン工場の説明を聞く



原鶴温泉う飼い

2008年10月26日

下流域リバーパーク・モニターツアー予告

八女の伝統工芸・工房めぐり

八女は清らかな矢部川のほとりに開けた歴史の深い街です。また多様な伝統工芸産業で栄えた街としても有名です。今回のツアーは、八女周辺の様々な伝統工芸の工房をめぐります。今回訪れる4つの工房はいずれもふだん見れない所ばかりです。八女福島の白壁の街なみを散策し、江戸末期築150年の古い趣のある町家で昼食をとります。



★期 日 10月26日(日)

★参加費 お一人様5,500円(昼食込み)

西鉄久留米駅前	出発 9:15	西鉄久留米駅前日本生命ビル前
広川町長延	9:45~11:00	久留米絨工房「山藍」見学
上関町	11:30~12:00	「線香水車場」線香の原料を水車で砕いている現場見学
八女市福島の街なみ	12:30~14:00	昼食：江戸末期建築の町家で昼食 白壁の街なみ散策、横町町家交流館見学
八女市柳瀬	14:10~15:00	手すき和紙工房
八女市平	15:10~15:50	八女提灯張り工房
八女市内	16:00~16:40	八女伝統工芸館 (休憩、みやげ買い物、伝統工芸の 実演および体験)
西鉄久留米駅前	到着 17:30	道路状況などにより時間の変動あり

申し込み先・お問合せ: ※申し込み受け付け 10/10まで

(株)西日本旅行(担当:江越) (ANTA全国旅行業協会正会員)

福岡県知事登録2-591号 〒830-0038久留米市西町864-2

TEL 0942-32-8383 FAX 0942-32-8380

Eメール egoshi@travel-west.co.jp

2008年11月16日

中流域リバーパーク・モニターツアー予告

～紅葉に彩られた秋月、
歴史と自然のふる里を訪ねて～

秋月氏、黒田氏の栄華がひっそりと眠る城下町。筑前の小京都・秋月、800年の様々な歴史と悲話を秘めている。紅葉に彩られた歴史と自然のふる里を訪ねます。

★期 日 11月16日(日)

★会 費 お一人様 5,500円(昼食付き)

●福岡天神出発のツアーです

9:20 福岡天神日本銀行前集合

9:30 出発

10:30 平塚川添遺跡公園見学

11:20 秋月郷土館

12:20 民芸茶屋「鎧」で昼食。竹釜めしは絶品

13:00 紅葉の秋月、散策を楽しんでください。

↓ (オプションとして草木染め体験と陶芸体験)

15:00

15:20 キリンビール福岡工場見学

16:30 出発

17:30 福岡天神着

申し込み・問い合わせ先:

(有)エム・アンド・ワイ。

商事旅行部(担当:夏)

TEL 092-662-8858

携帯 080-1726-3289(夏)



2008年11月29日

下流域リバーパーク・モニターツアー予告

筑後川河口から舟で上陸
～古代ロマン・徐福伝説の足取りを訪ねて～

★期 日 平成20年11月29日(土)

★参加費 お一人様7,900円
(バス代、船代・昼食弁当を含む)

★募集人員 30名 ※但し、25名に満たない場合は中止します。

★受 付 11月8日まで

★添 乗 員 同行しません

※但し、徐福研究会のボランティアガイドとNPO法人
みなくるSAGAより係員が同行します。

9:15 西鉄久留米駅前出発
(西鉄久留米駅前日本生命ビル前)

9:25 JR久留米駅前

10:15 戸ヶ里港～筑後川クルーズ～

11:15 浮杯・徐福上陸の地(金立神社下社)



～お手洗いの井戸

～佐野常民記念館(昼食弁当)

～新北神社(樹齢2200年ビャクシンの木)

～お辰観音・源蔵松 ～金立公園・徐福長寿館

～JR久留米駅前

17:00 西鉄久留米駅前日本生命ビル前着

申込先:(株)西日本旅行(担当:江越) TEL 0942-32-8383

企画・問い合わせ先:

NPO法人みなくる佐賀 担当:西原 TEL090-4510-8416

筑後川まるごとリバーパークモニターツアー-矢部川流域編

10/26(日)、西鉄久留米駅前を9時15分に出発し、八女地方に集積する国鉄工五の工場を巡るツアーを参加者12名で実施しました。

まず、広川町の文館米かり工房「山笠」を訪ね、重宝無形文化財技術保持者の山村省二さんの案内で藍染め、手織りなどの作業場を見学し、約30もの工程を経て出来上がる技術に感嘆しました。実際に藍染の体験もしました。

次に上関町八幡谷の漆喰水車場を訪ねました。ここでは水車で漆喰の原料となる杉の葉を砕いていますが、丁度20年に一度の解体修理中で、ふだん見れない水車の全体像を見ることができました。

その後八丈郡島田町の街並みにある築50年の古商家を改造したレストランで昼食をとり、街並みギャラリーめぐりのイベントを楽しみながら散策しました。八丈市手さき和紙の工房を訪問。手さき和紙を体験しました。

最後に、狸切張り工房と八丈伝統工芸館を見学し、17時過ぎに久留米に戻りました。

今日のツアーでは、ふたたび見ることもできない伝統工芸品の職人の技を堪能する旅になりました。



2008年12月21日

筑後川リバーパーク・モニターツアー 12月のご案内

初冬の筑後川源流と九重高原
**黒川温泉入浴と
名物豆腐料理**

期 日 **12/21(日)**

参加費 1人5,500円(食事・風呂・交通費込み)

定 員 15名(但し、日田からは4,000円)



源流
「清涼の森」

問合せ先

(有)エム・アンド・ワイ
高串旅行部(担当:夏)
TEL 092-682-8858
携帯 080-1726-3288(夏)
又は、担当ノ成毛まで
TEL・FAX 0973-24-2190

9:15 出発 西鉄久留米駅前(日本生命ビル前)
大山「木の花ガーデン」(ハーブティ体験)
黒川温泉/「古井」豆腐料理(昼食)
露天風呂入浴
源流「清涼の森」散策
やまなみハイウェイ/牧ノ戸峠(車中)
九重高原/自然観察木道トレッキング
19:00 西鉄久留米着

※上記の内容は都合により変わることが
ありますのでその旨はご了承ください。

黒川温泉



2009年2月22日

筑後川リバーパーク・モニターツアー 2月の企画内

水郷柳川 史跡・名勝めぐり

旅人を乗せたどんこ舟が橋渡しを行き交い、
水面にさざ波立つ「柳川」
そこには城下町のなごりをとどめた、情緒に
満ちた時間が待っています。
水の流れに、詩歌の優しさに、心が癒されていく。
柳川には本当の春が溢れています。

期 日 **2/22(日)**
参加費 1人5,500円(昼食のみ)
行 程 福岡天神午前9:00発
特急電車で間に合います。

問合せ先

株式会社西日本旅行(担当:江崎)
〒830-0038久留米市西町864-2
TEL 0942-32-8363
FAX 0942-32-8360
E-mail egositi@travel-west.co.jp

西鉄 柳川駅 集合 10:00



西鉄 柳川駅 到着 16:20

西鉄 柳川駅前

徒歩にて名勝散策(三柱神社)

10:50~12:00 川下り

昼食:柳川名物うなぎのせいろ煮し

柳川史跡・名勝散策

御石松濤園

矢留大神宮(平家落人)

白萩詩碑苑、柳川歴史民俗資料館

津ノ入江(有明海の瀬)

旧戸島邸・庭園(石州流)

(道路状況等により時間の変動があります)

※上記の内容は都合により変わることがありますのでその時はご了承ください。



さげもんひる祭り

NPO法人筑後川流域道楽倶楽部、筑後川まるごとリバーパーク推進協議会、筑後川まるごと博物館運営委員会、久留米大学産業経済研究所筑後川プロジェクト※協同で筑後川流域を一般の方に紹介するツアーです。

2008年11月28日～12月2日

大川マイスターツーリズム

11/28～12/2

大川商工会議所では、11月下旬から12月上旬にかけて小規模事業者新事業企画展開支援事業の一環として、モニターバスツアー3コース(定員20名)を開催しました。参加者の全員が穂岡市内とその近郊の方々でした。

「ココロ作り語り」をテーマに五感を楽しむ旅としてものづくりと古謡メロディーの「地域資源」にスポットを当てた、人々の交流と大川の優れた個性発見の旅となり、参加者の大半から実施アンケートに大変好評を得たようです。

●Aコース 11月28日/ものづくりの思いは深く



昇龍橋を渡る

最大な力(力)の「権威」を
昇龍橋を渡る参詣者



肥後街道参詣

に無刀参詣(肥後街道)を敬重



食卓作り体験

楽しい「食卓作り」に参詣者

●Bコース 11月30日/音楽とインテリアを鑑賞に味わう



イ製品展示場

イ製品展示場で説明を受ける



からくり筆筒

大川ならではの個性
「からくり筆筒」に見入る参詣者



ミニコンサート

町家民謡CIVAS-館でやさしい空間の
ミニコンサートに参詣者

●Cコース 12月2日/古謡メロディー・センチメンタルジャーニー



古謡民謡記念館で演奏

古謡民謡記念館での
生演奏にうっとり



船上演奏

船上での古謡メロディー
生演奏を聴く



酒造の利き酒

酒造の杜氏さんとの
すまじの利き酒

2009年7月11日

「第23回筑後川フェスティバルin福岡」 協力・エコツーリズム

筑後川まるごとリバーパーク・モニターツアー 「水が育む八女・星野の伝統文化体験」

“伝統の技が育む久留米餅、珍しい線香水車場、お茶と陶芸の里星野を訪ねます”

とき：2009年7月11日(土)

費用：1人6,000円(昼食込み)

行程：※福岡天神午前8時30分発西鉄電車特急で、出発に間に合います

9:00集合(西鉄久留米駅前日本生命ビル前)～

9:15出発～広川町～八女市上陽町～星野村～

17:30頃 西鉄久留米駅前へ帰着予定(合瀬耳納峠経由)



重要無形文化財久留米餅工房



線香水車場

申し込み先・お問合せ：(有)エムアンドワイ商事(旅行部担当：夏)

締切り6月27日

TEL:092-662-8858(旅行部) FAX:092-662-8848 携帯:080-1726-3289(夏) Eメール:ryokou_my@yahoo.co.jp

2009年7月11日

第23回筑後川フェスティバルin福岡 協力事業・エコツーリズム
筑後川まるごとリバーパークモニターツアー(矢部川流域)

「水が育む八女・星野の伝統文化体験」 7月11日

午前9:15に西鉄久留米駅前を45人を乗せた観光バスは出発し、30分程で広川町の久留米かすりの工房「山藍」に到着しました。久留米かすりの説明のあと藍染の実演をして頂き、参加者は藍染体験をしました。また、久留米かすりの手縫いの実演も見ることができました。次に、星野川を上流へ逆上り、上陽町の線香水平場を訪ねました。ここは昨年古くなった水車の改修が行われ、テレビ放映もされ話題となっている場所です。線香の原料となる杉の葉を水車の動力で粉にしています。半径が人の背丈はあろうかという大きな水車が機関車のような音を響かせて回る姿に、参加者は感動していました。

その後星野村に入り、昼食を池の山荘で食べたあと、池の山公園内の広島原爆の灯を灯している平和の塔を見て、星野茶の製茶工場を見学、おいしい抹茶をいただきました。

その後400枚の田が天にも上るような棚田百選の一つ広内の棚田を見て、星野焼の窯元、錠光窯を訪れました。窯元のお父さんが原爆の火を星野に持ち帰った話などを聞きました。耳納峠を下り、うきはから久留米へ帰り着いたのは17:30でした。

ふだん見られない伝統文化の一端にふれることができた旅でした。(鍋田康成)



星野村・広内の棚田をバックに

2009年12月20日

筑後川まるごとリバーパークモニターツアー(上流編)の予告

筑後川源流・九重高原散策と 黒川温泉で、豆腐料理を味わう

2009年 12月20日(日)

集合解散 西鉄久留米駅前9:00～18:30 (日生ビル前)
募集定員 25人程度
参加費用 1人 6,000円 (バス代・食事) 入浴はオプションです
コース内容 黒川温泉の露天風呂入浴と名物豆腐料理・日本唯一の夫婦滝
筑後川源流・清流の森とすずめ地獄の散策
九重高原の冬の自然歩道木道トレッキング
奥郷谷から九重連山展望、パースト牧場
問い合わせ (有)エム・アンド・ワイ商事旅行部(担当:夏) TEL092-662-8858



2009年9月26日

筑後川まるごとリバーパークモニターツアー(上流編)の実施報告

上流自然エネルギー利用の現場を訪ねる

9月26日、今回のモニターツアーは「筑後川の上流の自然エネルギー利用の現場を訪ねる」をテーマとして実施。最初は全国で「環境自治体」として表彰された日田市の「バイオマス資源化センター」を見学、市内全域での生ゴミ分別と豚糞尿の集約処理に支えられたメタンガス発電から、液肥、堆肥までの全面的なリサイクル施設に感心していたが、メタン発酵槽のタンクに登った折には、丁度有毒ガスの発生時間帯との注意を受け一同ヒヤリ。

続いて訪ねた小鹿田焼の里では、江戸期以来自然と共生してきた技術と暮らしを今に伝える民陶の里のたたずまいと、唐臼の音、“語りべ”坂本茂木さんの話に一同感銘。

昼食は日田市内に戻り柳原白蓮ゆかりの料亭「九兵衛茶屋」で白蓮の資料を見学し、豪華な料理をゆっくりと味わった。午後は高速で九重に向かい、国内最大の11万kwを発電する「八丁原地熱発電所」を見学。各所から噴煙が立ち上る広大な敷地内の施設で説明を聞き発電の施設を見学、地熱の強大なエネルギーを制御し生かすシステムに圧倒された。

帰路は、奥郷谷から九重連山の雄大な風景を楽しみ、行きには良く見れなかった鐘山の風力発電風車群を車窓から眺めてツアーを終えた。(成毛克美)



2010年9月11日

「第24回筑後川フェスティバルin九重」協力事業・エコツーリズム
筑後川まるごとリバーパークモニターツアー2010

筑後川上流滝めぐりと 自然エネルギー利用の現場を訪ねる

涼感あふれる3つの滝と、九重の小水力発電と
地熱発電の現場を筑後川上流を訪ねるエコツアーです。

筑後川上流に滝と自然エネルギー利用の宝庫です。玖珠川の迫力あふれる桜滝と
滝裏が見れる慈恩の滝、三日月の滝、九酔溪の小水力発電と日本最大の九重八丁
原地熱発電所、地球のエネルギーを感じる小松地獄と九重高原を訪ねます。鏡山
風力発電、バイオマス発電施設も車内から見れます。

とき：2010年9月11日(土)

費用：一般1人 6,000円(昼食、バス代、保険含む)

行程：福岡天神午前8時30分発西鉄電車特急で、
出発に間に合います

9:00集合(西鉄久留米駅前日本生命ビル前) 9:15出発

- ◇天ヶ源温泉の迫力の桜滝
- ◇慈恩の滝(涼しい滝の裏が散策できます)
→途中、三日月の滝、鏡山風力発電所(車内)
- ◇九酔溪、桂系屋(小水力発電、昼食ハイキング)
→九重泉水橋(奥郷谷から九重連山展望)
- ◇九重八丁原地熱発電所(見学)及び小松地獄
- ◇雄大な九重高原展望所(九重森林公園スキー場)
→九重IC→10:30頃
西鉄久留米駅前へ帰着予定

※申し込み締切り 8月30日

20名限定
先着順



小松地獄



慈恩の滝



全国最大規模の九重八丁原地熱発電所

●詳細はCCRN-blog (<http://blog.ccrn.jp/>) に掲載中
●主催 NPO法人 筑後川流域連携倶楽部
※申し込み先・お問合せ
(有)エムアンドワイ商事(旅行部担当:夏)
TEL 092-662-8858(旅行部)

2010年11月3日～11月7日

予告

筑後川 源流から河口まで巡る旅

～玖珠川コース～

昨年は筑後川の源流黒川温泉周辺から有明海までを巡るツアーを実施致しました。大変好評でした。今年は玖珠川の源流飯田高原の鳴子川から河口まで、筑後川を巡る旅(11月3日～7日まで4泊5日)を実施する予定です。上流域では、源流から鳴子川沿いに夢の大吊り橋、九酔峡の紅葉を楽しみながら歩きます。豊後中村から天ヶ瀬は車窓からの筑後川風景を楽しみます。中流域では、大石堰、長野水神社、山田堰、恵利堰など筑後川にかかわった先人たちの歴史を徒歩とサイクリングで訪ねます。また、片の瀬から久留米までゴムボートで川下りにチャレンジします。下流域では、野鳥の観察をしながら有明海まで船旅を楽しみます。

筑後川は、古来より、生活の糧を得たり、交通や輸送の手段であったり、流域の人びとの生活に様々な役割を果たしてきました。その筑後川の歴史、自然や環境を自分の目で確かめてみませんか。歩いて見る筑後川、サイクリングをしながら見る筑後川、車窓から見る筑後川、船上から見る筑後川、きっと新しい発見があるに違いありません。詳細については後日ご案内致します。

※期日：11月3日(水) から7日(日)



2010年9月11日

筑後川
リバーパーク
モニターツアー

筑後川上流滝めぐりと 自然エネルギー利用 の現場を訪ねる

9/11(土) 好天に恵まれ上流ツアーを実施。本流大山川と最大の支流玖珠川が合流する日田では、三隈川と「サッポロビール工場」等を車中から見学し、最初の目的地天ヶ瀬温泉に到着。10分程歩いて「名瀬／桜滝」を訪れ、江戸時代から名高い滝の迫力に感動。その後、大蛇伝説のある「慈恩の滝」に行き、水しぶきをあびながら滝の裏側を見学。反対側の鐘山の上には大きな風車も望めた。玖珠の山々を背景にした「三日月の滝」を下車して眺め、小松女院の悲恋伝説に思いを馳せる。次には紅葉の名所「九酔峡」で道沿いの「銅山の滝」と横の小水力発電所を通り、「桂茶屋」わきの70m以上の落差がある取水口となっている「天狗の滝」を見学。「桂茶屋」ではボリュームたっぷりの「和、洋、中華」バイキングでゆっくりと昼食。

足湯も楽しんだ後、九重高原の「泉水橋」から九重連山を背景にした雄大な奥郷谷の眺めを満喫。そして今回のハイライトである国内最大の「八丁原地熱発電所」に到着。展示室で説明を受けた後、屋外の施設やタービンを見学、一同世界でも屈指の規模の地熱発電所の大迫力に改めて地球のエネルギーを体感した。残念ながら「小松地蔵」は工事中で見れなかったが、帰路の高速上からは再び「鐘山の風車群」を眺めてツアーを終えた。(成毛克美)



2010年8月6日～8月8日

四国三郎・ 吉野川 交流ツアー

8/6～8
高知県土佐町
早明浦ダム周辺



早明浦ダム直下にて

2005年に、四国三郎吉野川と相互交流を始めて6年目となる今年の吉野川ツアーは、上流で実施された「早明浦湖水祭」、「やまびこカーニバル」に第後川から9人が参加した。

6日の夜、久留米を出発。小倉からフェリーで7日の早朝に松山着、高速道路で四国八十八ヶ所の66番札所、雲辺寺を見学後、午後1時からの「湖水祭のシンポジウム」に参加した。夜は地元の皆さんと夜なべ談義に花が咲き、交流を深めた。

8日の朝は「早明浦ダム施設内見学」を行い、午後の松山・柳井フェリー経由で夜10時過ぎ、九州へ帰り着いた。
(鍋田康成)



地元との交流会

2010年10月2日

伊能忠敬が歩いた秋月と朝倉を巡る旅

10月2日

- ① 自鏡橋
- ② 大刀洗平和記念館
- ③ 秋月藩武家屋敷田代家
- ④ 秋月長門門

伊能忠敬の測量日記に文化9年(1812)9月29日、30日の2日間秋月地域を測量した記録が残されています。今回のツアーは伊能忠敬の測量日記をにそって、秋月を散策致しました。

忠敬は長崎橋(日鏡橋)から鳥町、中町、上町、四辻と測量し、長生寺、大涼寺、浄覚寺、古心寺へと巡っています。測量日記に書かれた距離の正確さに驚かされました。宿泊の本陣となった和賀屋雄左衛門邸は調査しましたがわかりませんでした。

今年の6月に復元し公開された秋月藩武家屋敷田代家を見学致しました。その後、秋月城黒門そばの『古処庵』にて昼食の郷土料理を楽しみました。

昨年10月に開館した大刀洗平和記念館も見学し、平和の大切さを実感してきました。その後、鍋後川流域の水を利用し環境問題に取り組んでいるキリンビール福岡工場も見学しました。キリンビール工場白壁のコスモス園は、残念ながら咲き始めで1～2輪のコスモスしか見られませんでした。「伊能忠敬の測量の正確さに驚かされました」、「測量日記に沿っての散策は、観光旅行と違った楽しさがありました」と、今回のツアーに参加した人からの感想が寄せられました。(平田昌之)



2010年11月3日～11月7日

晴天に恵まれ
快適な旅でした！

筑後川「源流から河口まで巡る旅」

富坂川の舟。現在川が流りとした痕跡、筑後川にまわつたに人たちの歴史や文化などを語りながら漂流から河口まで約60日の旅を終えました。歩きあがり、丹波・山本ルート、自動車、あゝの里の民芸店に描きました。歩きながら見る鳥居川、車中からは筑後川、船の上では筑後川の魅力と自然美がいっぱい見つかりました。また、人類史の人たちとの交流、道端で船の登場を食へ、コムポートでの川遊び、川原ではまるでお祭り気分、船上での豪華パーティ会と舟幸と満ちた夜を楽しみました。いくばくもない発見や感動がありました。夢遊船「筑後川」は75名、全行程約8日間、足取り正さぬ(久米実)、舟村さん(衣笠真由み)さん、平岡君(山崎直子)の3名でした。



たて原温泉・大船山林道・池がつる→妻子川温泉→法華四菩薩山荘の

[illegible]

法華院通算山荘→大船山中興→結がつる→くらそめ通→くじゅう自治学校

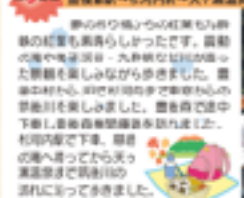


A group of approximately ten people, including men and women of various ages, are posing for a group photo in front of a large, multi-tiered waterfall. The waterfall is surrounded by lush green vegetation and rocks. The people are dressed in casual outdoor attire, and some are waving at the camera.

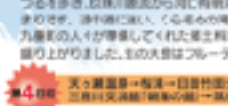


明治つもの朝は薄曇り、池たぐいの
遊め寺帰りました。雲一つない晴天で
す。世口に聞く九郎太山で手に取るよ
うに近く見えます。その雄大な景色

第3日 九龍自然學苑→夢之天園→燒烤→九龍城→康翠園村莊(290)→
康翠園莊→美蘭中學→茶室→鐘樓及鐘館內

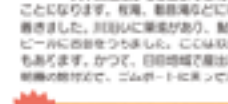


を眺めながら、スズと穂の喧れも聴け



公園→日野元気の駅→
河川緑地→ゆめが丘

天・眞道堂から日田まで行くと朝から長い距離を



また、日野竹公園へたどり着くまでに訪れた施設。駅の雄略寺と高台にある山科川と山科川が合流して三景川となるところで、この水車を久米米や大川へ運ぶ運びました。水遊びも楽しめました。

第5日 四旗川温泉・六石町・具野水神社・山形城・三浦水車・〈湯治亭入(湯上船)〉



筑後川流域における先人たちの川がけが、皆が分かるところで、ススキ原や川岸沖まで大石を並べた道にいて、木が倒れたら、倒れた木をまたいで歩きました。もしは道橋を石で作り出した後、石製の橋に木を架けて歩きました。牛車馬、舟にのる人たちの足跡に驚きと感動がもたらした、川原歩きで有名な道、川原道です。途中、河原町にたどり着くと、大石がまたありました。再び、船上で鑑パーティを開いた。筑後川流域で、ほがまを登った新屋は築城された。

第6日 大關原一戰野將死於亂槍之下——有德海——八月廿四日渡邊

[illegible]

そのむとりに、「有明海の青緑の明後の大波にひっくりめした。上流からの船がのびを刺すのぞき。川を大切にしなければいけません」と感想を言っていました。船の進むのを助けてくれたのは沿岸防波堤から聞こえる大きな波の音。船がのびを刺すのぞき。川を大切にしなければいけません」と感想を言っていました。

“2010年 創立50周年 感恩感謝”

[illegible]

環境社会適応型企業

※本誌では、海外の事例を二、三に紹介する程度にとどめておきます。

経営学系 経済学系 工学系 アグリ系

[Twitter](#)
[Facebook](#)
[Instagram](#)

日経ニシケン 10000-0000
東京証券取引所 第一部 上場
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

http://www.t-ei.co.jp/ / A 0042-35-4305

[Home](#)
[About Us](#)
[Contact Us](#)
[Privacy Policy](#)
[Terms of Service](#)

藤原 好恵さん
本分館日曜日

[illegible]

夢加者
の再

[illegible]

2010年12月9日

景観発見&まちづくり体験体感ツアー・ちっこ川さるく 第1回

くるめ水天宮界隈の民話・ 歴史散歩と舟で行く探鳥ツアー

2010年
12月19日(日)
久留米市

九州新幹線前線開業を3月に控え、駅周辺が整備されつつあるJR久留米駅西口に午前9:00に参加者23人が集合し、歩いて出発。

旧馬場藩城下の古地図を片手に旧武家屋敷町の景観、水天宮界隈を久留米市観光ボランティアガイドの会の方の案内で歴史探訪した。梅林寺から水天宮まで歴史を語りながら歩き、10:00出発の筑後川遊覧船に乗って数千里の渡りのおもしろさを日本野鳥の会筑後支部長松宮士氏の解説付きで観察した。約50分の乗船後、舟を降り水天宮社務所において、京阪民話の会の方々の地元方言による水天宮のキャパなどの伝承民話を聞き、近くで保存公開されている坂本龍二郎西伯の生家(市内唯一の武家屋敷)で幕末、明治期の企画展などを見学した。12:30に解散した半日のコースだったが、地元の方々の詳しい解説付きのツアーに参加者は新しい発見ができ満足したようだった。帰りには、近くの和菓子屋さんで「水天宮おもしろものがたり」という新作のまんじゅうを買った人が半数ほどいた。筑後川まるごと博物館では、今後もこの気派な「さるく」ツアーを企画していく予定です。

(岡田康成)

(主催: 福岡県都市計画協会、福岡県美しいまちづくり協議会、福岡県)



2011年5月22日

筑後川まるごとリバーパークモニターツアー2011

報告

八女のお茶摘みと 久留米かすり藍染め体験

5月22日 久留米市～八女市上陽町、星野村

5月の八女地方は茶摘みの最盛期です。この日は約20人の参加者が八女地方の地場産業の体験ツアーを行った。まず、広川町にある久留米かすりの手織り工房「山藍」を訪ね、国指定重要無形文化財久留米絣技術保持者の山村省二さんに、藍染め体験を指導していただきました。参加者は初めての藍染めを楽しんでいました。次に八女市の上陽町では、江戸末期築造の造り酒屋の居宅「旧川口邸」において地元でとれた食材による田舎料理を味わいました。そしてここからほど近い、茶園でお茶摘みを体験しました。次に星野村へ入り、この時期最盛期の、福岡県内には数力所しかないという抹茶（碾茶）工場を見学しました。お茶会などで出される抹茶の製造工程がよくわかりました。今回は「茶のくに八女」を満喫した一日となり、参加者一同皆満足して帰途につきました。（鍋田康成）



久留米かすり藍染め体験



八女のお茶摘み体験

2011年7月10日

「源流に秘滝、温泉と自然エネルギーの郷を訪ねる」 モニターツアーを実施



①長者原源流碑前で集合 ②仙洞の滝 ③清流の森 ④岳の湯を歩く

7月10日、好天に恵まれたこの日筑後川上流域を巡るモニターツアーが24名の参加で行われた。水郷ひたを経て、最初に支流町田川にかかる「仙洞の滝」を見学。整備されたばかりの滝は、水量も多く参加者は歓声を上げて滝のエネルギーを体感していた。昼食は村の各所から噴煙が上がる「岳の湯」で蒸気でむしたボリュームたっぷりの料理を味わった。最源流の「清流の森」では、すずめ地獄や漂流奇岩の森を散策して源流の豊かな自然を楽しんだ。

その後は、雄大な阿蘇五岳を眺めながら「やまなみハイウェイ」で九重高原へ、長者原「源流の碑」前で記念撮影の後タテ原湿原の木道と原生林内の湧水を散策して、さわやかな源流の水源を見学した。帰路は、泉水橋から奥郷谷と九重連山の絶景を眺め、参加者一同源流域の広大で豊かな自然を思い出にツアーを終えた。

(文：成毛克美 写真：鍋田康成)

2011年12月4日

ちっこ川めぐる・筑後川まるごとリバーパーク

筑後川流域景観ツアー報告

広川の水車の里と藍染め体験 謎の石人と恋の神様を訪ねるツアー

12月4日 広川町～筑後市

筑後川流域の景観を発見しようと、公募で集った一般や学生約20人が広川町をバスで訪ねた。

西鉄久留米駅前を午前10:30に出発し、まず筑後川の支流広川の源流にあたる逆瀬谷薬師堂を訪れた。サザンカが咲く境内より出る湧水でのをうるおし、逆瀬ゴットン館に着いた。ここは「水車と青石垣の里」のシンボルとして、県内一の直径7mの水車が自然豊かな谷間にのんびりと回転している。水車でついた米も販売され、昼食には水車のひき臼でついたそば粉と逆瀬谷の湧水を使ったこだわりの「水車そば」を味わった。

その後、里の駅広川くだもの村へ立ち寄り、久

留米かすり手織り工房「山藍」では国指定重要無形文化財久留米かすりの技術保持者山村省二氏の指導により藍染め体験を行った。

そして筑後平野を一望に見下ろす石人山弘化谷古墳公園を資料館のガイドの案内で訪ねた。古墳からは、はるかに有明海、島原半島の山々が望めた。

最後に筑後市の水田天満宮を訪ね、全国唯一の良縁と幸福の神様を祀る恋木神社では参加者の若者たちが喜んでお参りしていた。

遅い秋の紅葉と、水車そばや藍染めも体験し、地域の歴史にも触れることができ、身近な所にも魅力的な場所があることを感じる事ができた。



逆瀬ゴットン館



久留米かすりの藍染め体験



弘化谷古墳



恋の木神社

2012年1月15日

維新の歴史を刻む水天宮と 久留米城下町・民話体験ウォーク

1月15日 久留米市

九州一の大河筑後川に育まれた城下町久留米の維新の歴史を訪ねた。50人を超える参加者はJR久留米駅を13時に出発し、梅林寺から水天宮へと約1.7kmを歩いた。

JR久留米駅西口周辺は旧京ノ隈といい、江戸時代の武家屋敷の街で歴史資源が豊富な所である。梅林寺は有馬藩主の菩提寺であり、維新の混乱期を見守ってきた。

長門石橋下には昔の軽便渡しの碑がひっそりと

ある。全国総本宮水天宮の明治維新の歴史を刻む真木和泉守像では観光ボランティアガイドが熱を入れて維新の先導者の解説を行った。

水天宮社務所では京隈民話の会の方より水天宮に伝わるカツバなどの地元の伝承民話の紙芝居があった。最後に市内唯一の武家屋敷・坂本繁二郎直伯生家を見学し15時30分に解散した。参加者は維新前後の久留米藩の歴史の話や水天宮と梅林寺の景観を満喫したようだった。



梅林寺



軽便渡し跡



水天宮



水天宮で紙芝居

源流から河口までを辿る旅2012

宝満山の麓を源流とする 宝満川から有明海へ

源流から河口までを辿る旅の第4回は、大宮市天高町の麓にそびえる宝満山の山麓に源を発する宝満川が河口までを辿りました。大正時代の歴史を牽引して加えられた宝満川の自然を歩みながら登山をするグループに分かれる予定でしたが、登山参加者が少なかつたため、登山は中止しました。

11月8日

宝満川の源流付近の大正神社と明治自然の家を訪れました。太宰府を流れる川は、宝満山の麓を源流として御多前に注ぐ御多川で筑後川流域へと合流します。大正町・三市・朝倉街道は、博多湾と有明海を門で結ぶ重要な地点であるといわれています。有明海へ注ぐ宝満川と筑後川へ注ぐ御多川の間に興味が湧き、御多川流域の観光と史跡散策を楽しみました。

宝満川源流付近の宝満神社の庭

大正町自然の家
大正町紅葉

11月9日

太宰府の北方守りであった大野武蔵、市内を展望できる雲居城へ足を伸ばしました。福岡県立博物館では、フェルメール「真珠の首飾り」の少女のバルーン国立美術館の特別展を観覧しました。宝満川沿いにはなかなか歩けないためで移動。筑紫郡市美咲町でエレプに空気や水を注入・排出することのできる観望台を見学しました。

小郡市と筑前町の境界にある臨山（金保立山）へ登りました。筑紫・筑後にまたがる景観であった山脈が崩れて、筑前町の規模が縮小し、「国史館」へ寄り添いました。九州最大の「南方後方橋」と呼ばれています。宝満川によって形成された緑地が一帯で広がっています。

11月10日

平成22年に人口増大が小郡市へ移転した九州歴史資料館へ参拝。太宰府周辺の歴史を学ぶことができました。

「かまもろ」という別名でも有名な御多前川に参拝しました。御多前の町会館創立者は、行基が舟を牽引して一刀三札を以て刻んだ希有の名作で、県の重要文化財に指定されています。

境内にあるもうひとつの御多前の川が流れ出ているのは驚かされました。七ヶ瀬公園に参拝。臨時からの筑後川遊覧船（さくら丸）で行われた上流・中流・下流交差点に参拝しました。船内で夜叉女伝説、明治しました。

11月11日

最終日は筑前おかもら丸でのクルージング。おかもら丸のユーマアのある説明に聞き惚れながら有明海へ向かいました。周囲からみる光景、野鳥の姿やムジコロウの飛び跳ねる姿に歓声があがりました。「宝満の水はどうしてこんなに濁っているのか？」との質問がありました。

「宝満が火山地帯で河床に堆積した火山灰等が暴風の際により混濁して乱れるから」との説明に納得。朝倉市で全行程参加者と御多前川をめぐると、筑前川は上流から下流に進むにつれて、水質が悪化していった。思い描いていた夢と違って少し残念です。

有明海でのクルージングは、全員でイカが一匹釣れたにすぎない。宝満川の下流で海苔栽培を見ながら御多前川へ戻りました。

大正町自然の家

筑前町自然の家

筑前町自然の家

九州歴史資料館

筑前町自然の家

2012年11月10日



下船する子ども達をサポートする学生達

この乗船会には、久留米大学の学生達がサポートしました。船への乗り降りを手伝ったりして子ども達と仲良くなっていました。また、下船後もおかむら丸の岡村船長といっしょに写真を撮ったりして子ども達は楽しそうでした。

この日は午前11時に、くるめウエ下にある筑後川河川敷の乗船場から出航してくるめ舟通しを通過する水天宮沖往復60分のコースで行いました。募集に応募した17人の子ども達が参加しておだやかな筑後川の船旅を楽しみました。ふだん、外出する機会が少ない子ども達にとって、筑後川を船に乗って川から山や樹を見てみると、川からの景色は心を癒してくれるようでした。くるめ舟通しは、筑後川の堰を船が通れるように、バナマ運河方式で作った珍しい水路で、このコースのハイライト。その珍しい仕組みに参加者は面白そうでした。

筑後川流域連携倶楽部では、昨年より年に1回、障がいのある子ども達を無料招待して、遊覧船の乗船体験会を行っています。

平成24年11月10日 久留米市

筑後川遊覧船 障がいのある子供たち 体験乗船会

筑後川まるごとリバーパーク モニターツアー2012 実施報告

〈記事・写真〉
鍋田康成
筑後川まるごと博物館運営委員会

野の町並み歴史探訪ウォーク

地方の歴史を伝える史料として、古くは「日本書紀」や「古事記」では、「天孫降臨」の物語が、中世には「源氏物語」や「平家物語」などがあり、近世には「浮城物語」や「浮城物語」などがある。また、明治時代には「浮城物語」や「浮城物語」などがある。

明治時代には「浮城物語」や「浮城物語」などがある。

の裏面を見れば、おぼつちかたが分る。この目録は、田園にいづれをも不義に仕立ててゐる筈ばかりであり、内情を見れば、さういふ上に譯して解説までしてゐたのである。

「それは、その通りです。でも、それでは、どうして、このように、おっしゃるのですか？」

摩街道
リック教会周辺の歴史景観めぐり

櫻と白の二色など同時の通称などを用いた。開張のポスタータイプはカイトの方に群く踏つていたと云ふ。その中、三田三吉の穿生刺繍の仕様にやう九州刺繍、寛政刺繡とは古代風の格好づくりや、古代刺繡の裏付けなどを本物と誤しんだと、新井が同様の装束の神楽道楽を見学しました。その後渡邊の良い彫立山

温泉で療養をし、主として、大別荘で、はその名の如く、なつた大別荘に立つ、両本朝の大張床合戦の二夜、明治元年等の所で大別荘を、さう、大別荘のガイドの、方々に、大別荘による、解説をして、いた

そして三門義隆、東照壇を造った立



三、運轉針



計算機二進制編碼



萬能兄弟



2004年12月

平成20年11月6日 小園市・大刀新町
庄園を転々と大塚神社と所蔵品水のサイ
オホを我輩、前後にキリッタン四郎
史を伝える寺のトリヤツと戦士の内務
を興業した。戦車軍の中はアリス
マスに初めて知天の指図の方々に由る
大津波の被害中心したが、万が一の方
策にも拘らず許可された。内務を
見ることで改めて、夕陽に映った
新しいランドタラスで、高層山の初
別荘に我が手を掲げた。

このランド・ロスは異変ですが、遠
く越えては能力の環境が等々あるこ
とであらう。

2013年2月9日

筑後流鏑馬観戦ツアー2012 (筑後川まるごとリバーパークモニターツアー)

源平最後の合戦地・みやまの景観 「平家伝説の里ウォークツアー」

実施報告

平成25年2月9日 筑後市 宮田地区 筑後川まるごとリバーパーク運営委員会

この日はよく晴れ、暖かい日になった。朝からみやま市山川町の山川町民センター周辺では、恒例の年家祭り「九州平家伝説みやま」が開催されており、会場では多彩なイベントが行われていた。リバーパークからは無料シャトルバスも運行された。朝10時過ぎには、ウォークツアー旅行に次々と人が集まり、当ウォークツアーの参加者約80人も会場に集結し、物7の、と持物のツアーに出発した。

開始を待たず、まず五木酒造の酒蔵を見学した。ご主人の案内で酒蔵の中を見学したあと、うしろかな開きの中、川を渡り栗川公園まで歩いた。みかん畑の奥として有名な、みやま市山川町には、平家伝説が色濃く残っている。堀ノ沢の奥に隠れた平家一門は、ここを拠点として、源平最後の合戦に臨んだと言われている。みやま市を歩くと、源平の足跡が、そこそこ一行

は地元の方々の方、この地で平家は最後の合戦に臨み散り散りに落ちた。ここから旧蔵街道を歩き、平家が陣取りとして使った足跡らしの古い「物見塚」、さらに栗川の合戦で散った平家が陣を捨てた「七重の滝」とその跡をまつる「七重の滝」まで歩いた。ここからうしろとした杉の林の中で、滝がすぐそばにある。地元の方々が、せんざいやせんざいの滝、みかんなどを中心とした観光地として、観光客の手を引く。一行はさらに歩き、八幡宮の境内に到着した。一行はさらに歩き、八幡宮の境内に到着した。一行はさらに歩き、八幡宮の境内に到着した。

約7kmをのんびり歩き、歴史と景観の新しい発見をしたツアーに参加者はたいへん満足した様子だった。



栗川公園

源平合戦

もみぢの滝

七重の滝

平家の郷

2013年9月16日

彼岸花満開、農家料理・梨狩り・窯元見学に大満足！ 「つづら棚田・くど造り民家探訪ツアー」

9月16日、秋晴れのもと参加者23人は、西鉄久留米駅前に9時に集合し、観光バスでうきは市へ向けて出発しました。吉井町でボランティアガイドが同乗し、途中、うきはの歴史などを詳しく解説していただきました。

今回訪れた隈の上川流域は平成24年7月の豪雨水害で大きな被害を受けました。途中の川沿いや、つづら棚田ではその痕跡があちこちに見受けられました。耳納山地の東端、隈の上川流域は、まさに「日本の原風景」の、どこか懐かしい山里の景観が広がっています。うきは市の新川田地区は平成24年7月に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されました。

日本棚田百選「つづら棚田」は、約400年の歴史がある約300枚の棚田と石垣の景観がすばらしく、稲の刈入れと彼岸花が咲く最も美しい時期でした。森林セラピーロードも歩き（約60分）森林浴を体験しました。

昼食は、川沿いの農家民宿で地元のおばちゃんたちの手づくり料理を味わいました。くど造り民家平川家住宅は国指定重要文化財で、3つの棟から成る主屋は江戸時代に建てられ周囲の風景にとけこんで美しい景観でした。帰りに一の瀬焼窯元巡りと巨峰・梨狩りも楽しみ大満足の日でした。



▲つづら棚田の展望台から



▲彼岸花が咲く道を歩く



▲国指定重要文化財 平川家住宅

2013年8月1日

夏休み・親子で森の体験活動に歓声あがる！ 久留米発「星野村の自然まるごと探検隊」

夏休みの8月1日、公募で集った親子約30人が山と森に囲まれた星野村の自然を満喫しました。山々に囲まれた星のふるさと公園、池の山キャンプ場を久留米発のバスツアーで訪れ、3つの自然体験を行いました。午前中は、森の工作館で木工細工の体験でした。木の枝をノコギリで切り出し、キーホルダーを作りました。子ども達は慣れないノコギリに四苦八苦していました。

お昼はかまどの炭火で竹パンづくりを体験しました。竹の棒にパン生地をからませて、焼き上がったパンをほお張る子ども達は楽しそうでした。午後は自然いっぱいの森と池を自然観察。聴診器を木の幹に当てると、ゴーツという水を吸う音が聞こえました。天然記念物のオグラコウホネや森の植物の面白い話の解説がありました。

この日は、まる一日、自然あふれる星野村をめぐって楽しんだ一行は、満足した様子でした。



▲竹パンづくり体験



▲自然観察



木工細工
キーホルダー作り▶



▲星野村を囲む山の風景をバックに集合（森の工作館前）

2013年7月26日～7月28日

「日本三大暴れ川」兄弟川の縁組交流

吉野川フェスティバルへ 筑後川から21人が訪問

7月26日～28日

2006年より毎年実施している国・吉野川への交流ツアーも8回目となる今年は7月26日に久留米を出発、学生10人を含む21人が中型バスで徳島市を訪問しました。27日フェリーで松山港に早朝に上陸し、午前中徳島県庁の方の案内で四国八十八カ所霊場を2カ所まわり、鳴門のうず淵を鳴門大橋の真上から見学し、雄大な景観と自然の力を体感しました。午後徳島市内に入り、吉野川河川敷で行われている「吉野川フェスティバル」のお国自慢大会に参加。筑後川をアピールしました。会場では三大河川交流を行い、夜の懇親会に参加し、利根川、吉野川の人々と大いに交流しました。28日は新町川沿いで行われた「とくしまマルシェ」を見学し午前中の三大河川講演会に参加したあと、徳島に別れを告げました。最後海峡をフェリーで渡り、夜10時過ぎには久留米に帰着しました。（鍋田康成）



吉野川に架かる
瀬米橋を見学



▲三大河川お祭り

◀吉野川クルーズ 交流会▶



2013年10月12日

北野の歴史と筑後平野の景観、満開のコスモスを愉しむ 北野天満宮とコスモス街道を歩く

秋晴れの10月12日、午前9時30分、西鉄甘木線大城駅に参加者15人が集ってウォークツアーをスタートしました。(福岡県と共催)

北野町は広大な筑後平野の真ん中にあります。三井郡の名前の由来となった益影の井、古代の歴史を伝える良跡遺跡や塚島古墳、御井郡惣廟の赤司八幡宮、赤司城跡などを見渡す平野のまっただなかを歩きました。平安時代後期に京都から道真公の分霊を祀り創建された北野天満宮は、「北野」の地名の起源となり、その門前町そして坊津（藤原）街道としても栄えました。

北野天満宮では、陣屋川をよくする会の会長さんや宮司さんにこのような北野の歴史の話を伺いました。北野天満宮の横を流れる陣屋川の堤防上には、コスモスが4kmの長さで育てられコスモス街道として有名です。

10月12・13日はコスモスフェスティバルが開催され、コスモスウェディングなど多彩な催しが行われました。私たちは西鉄甘木線大城駅からコスモスパークまでの約4km、歴史の案内とコスモスの花を見ながらゆっくり歩きました。途中には3つの酒蔵もあり、のどかな秋の田園風景とともに地域の歴史を再発見したツアーとなりました。(鍋田康成)

コスモスウェディング▶



▲コスモスパーク



◀北野天満宮



▲北野天満宮宮司さんと陣屋川をよくする会会長さんの話を聞く

2013年9月29日

雨の秋月街道、 200年前へタイムスリップ!

伊能忠敬の測量隊は、文化9年（1812年）9月29日に秋月街道を測量し秋月城下に入りました。秋月に2泊して測量をしています。200年前にタイムスリップして、伊能忠敬の測量日記を手元に秋月城下のウォーキングを楽しみました。9月29日は途中より雨が降って残念でしたが、日記に残された個所を訪れ歩くことができました。

愛知県豊田市から参加された人は「筑後川新聞でこの企画を知った。伊能忠敬は海岸沿いに測量したと思っていたが、甘木街道・秋月街道・秋月市中も測量したと知り驚いた。結方春朗より3年早く生まれ、8年遅く死んだことも知った。

また、今回のツアーが、200年後の同日に実施されたことで、参加して大変思い出に残った」と、感想をよせてくれました。また別の参加者から「200年前、伊能忠敬が歩いたところを歩いていると思うと心がはずんだ。歩いてでの地図づくりなのに、その正確さに驚いた。楽しかった」との感想をいただきました。（平田昌之）



▲秋月街道を歩く



女房石▶



▲目録橋で測量日記を検証

2013年11月16日

筑後川まるごとリバーパークモニターツアー2013 久留米〜筑後川河口・有明海クルーズ

昨年11月16日午後、筑後川を船に乗って久留米から筑後川河口・有明海沖合いまでのクルージングに、一般参加者含めて50人が参加した。

有明海までの航海は年に1回のみ。この日一日、川からの景色は参加者の心を癒してくれた。梅林寺下の船着場から出航し、最初の筑後大堰の開門は、堰を船が通れるようにバナマ運河方式で作った珍しい水路だ。通過するとき参加者は興味津々だった。筑後大堰を通過して河口まで多くの橋をくぐり、有明海沖合いまでのゆったりとした船の旅を楽しんだ。

午前11時頃、大川市の大川橋下の川岸に着岸し、昼食を調達後、有明海沖へ向け出航。ノリ漁場と人工島を周遊した。広大なノリ

漁場に参加者一同目を見張り、また、海老やスナメリの姿も見ることができて感激していた。午後3時頃、大川市若津港へ着岸し下船した。

参加者は有明海の日本一の干満差を身をもって体感できた感動の日だった。

(鍋田康成)



◀ 岡村船長



大川若津港で下船した参加者たち

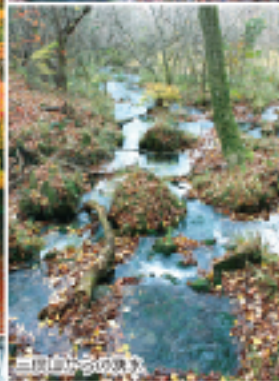
2013年11月14日～11月15日



筑後川源流の紅葉



筑後川源流の碑



三津江川源流の碑



三津江川源流の碑



三津江川源流の碑

久保長老の源流の碑を訪れた後、たて原温泉から雨が池へ向かう途中、三津山からの噴き出す湧水を発見し感動しました。小田町平野台の源流の碑から清流の森を、雨も陽射しを雨しながら散策しました。三津山温泉の紅葉がとても綺麗でした。雪の田の原温泉へ向かいました。

昨年11月14日、筑後川源流付近には、すっかり冬の足音が聞こえていました。カエデやコナラなどの落葉広葉樹は鮮やかに紅葉し、葉を落とし始めていました。根っこにたまった落ち葉をエネルギーに替え、春に新芽を出すための樹木たちの冬支度なのです。柱だけになった樹木の堅くて小さな芽が「今から冬の厳しさに頑張つて耐え抜きます」と語りかけているかのようでした。今回の筑後川143kmの旅は、今までに建立された3カ所の筑後川源流の碑をめぐり、河口有明海へ下りました。



筑後川源流の碑

11月17日、梅林立下から筑後大堰を通過して有明海沖合までのゆったりとした釣の旅を楽しみました。筑後大堰の開門は、堰を崩がれるようにパナマ運河方式で作った珍しい水路で、参加者全員興味深く見学しました。川の流れを速め河口付近での土砂の堆積を防ぎ、航路を維持するために築かれたデ・レーケ堰も感動しました。

ムツゴロウには会えませんが、有明海の日本一の干潟や収穫期を迎えたノリ畑の貴重な体験をしました。(平田昌之)



筑後大堰開門を通過



有明海の巨大な海苔漁場

11月15日、筑後川上流域には多くの滝があります。上津江川源流の碑を訪ねる途中の滝々滝々を乗り越えました。滝の側から広くカーテン状に流れ落ちる水を眺めることができました。自然の造形美の噴きを見たと感動しました。上津江フィッシングパークの源流の碑を訪ねた後、日田へ向かいました。

「フーテンの爺さん」の撮影地となった大別荘で、ぬるめの温泉でゆっくり疲れをとりました。



上津江源流の碑



日田川

筑後川143km源流から河口まで巡る旅 筑後川源流の碑を訪ねて

2013年11月24日



長田の紅葉狩



清水寺本坊周囲の美しい紅葉



大徳寺の紅葉狩



山門神社



長田地区の足湯につかる

(福田 誠)

さらに奥には三箇の塔、そして有明海まで望める筑後平野の大展望が開け、ここには白鳥の歌碑がありました。これらの名所が点在する清水山は全山紅葉に包まれ、地元ガイドの歴史解説を聞きながら散策しました。

午後は長田温泉場で行われていた長田の大祭会祭りに参加し、だこ汁と漬物の食べ比べを行いました。長田の大イチョウは、樹齢400年と伝えられていて、県指定天然記念物です。近くの長田温泉では、日本一鉄酸泉の水汲みと足湯入浴ができました。また、日本最古の天然味噌工場を見学し、原料の精製原木を細かく砕く機械には驚きました。その後、縁結びの恋の木神社を訪れ、最後に道の駅大木ではキノコのもぎ取り体験ができました。多くの山門神社では、大木町独特の提灯（フリース）と鎮守の森の美しい園地の景観と地元ガイドの方の解説を聞き、帰途に差しました。

昨年11月24日、よく晴れた日となり、西鉄久留米駅前に集合した参加者20人はこの日、南筑後の秋旅ツアーに出発しました。みずま川にある清水寺は天台宗の開山伝教大師（最澄）が道臣侯として帰国した際、大同元年（806年）に創建した白刹です。開山以来安座、子授け、縁結びの厚い信仰を興えてきました。中でも圓舟の作といわれる本坊庭園は紅葉の絶景として有名です。約9時30分過ぎに清水寺の駐車場に到着すると、すでに多くの人が訪れていました。観光協会ガイドの方と合流し、さっそく本坊へ向かいました。本坊前の大きな銀杏樹は風で葉が落ちて黄色のジュウタンとなっていました。本坊へ上ると庭園を賑わす大勢の人。紅葉は見頃を迎えて見事な景色でした。

本堂への長い石段の途中には、歴代ある五百羅漢、仁王門、山門などがあり、清水寺本堂へと登っていくと、途中の紅葉がと



清水寺の二重塔の紅葉

筑後川流域景観ツアー(筑後川まるごとリバーパーク)
絶景！清水寺の紅葉狩りに感激！

2014年2月23日

筑後川流域景観ツアー〈筑後川まるとリバーパーク〉 実施報告

水郷・柳川の雛祭りと掘割巡り
城下町の絵図を片手に歴史ガイドと共に歩きました。

2月23日、よく晴れた暖かい春の午後、雛祭りが開催中の柳川の町を西鉄柳川駅から沖の橋・御花前までの4km、掘割をのんびり行くドンコ舟を横に見ながら20人の参加者とともに、ゆっくりと歩きました。

柳川は、約400年前柳河城築城の際、堀を掘って形成された城下町です。そこは、治水・利水のための水利体系が整備され、先人の知恵による様々な仕組みが今なお息づいています。平家の落人伝説や藩政時代の遺産が残る柳川は、狭い中心市街地に網の目のように張り巡らされた掘割と人々の生活が共生するまちです。

柳川の歴史に詳しい柳川市観光ボランテ

ィアガイドの古賀久隆さんに同行していただき、江戸時代の城下町の絵図を片手に詳しく案内していただきました。

途中には折から開催中のひな祭り・さげもん飾りが京町商店街や沖の橋など各所にあり、華やかな城下町の雰囲気を十分に楽しみました。ドンコ舟が行き交う掘割沿いの日本の道百選の通りは参加者の皆さんがお気に入りの風景でした。ドンコ舟の船頭さんや乗客たちと声を交わしたり手を握ったりして楽しげにしていました。

掘割沿いに日吉神社、柳城公園、田中吉政公像、白秋道路とゆっくり歩き、観光客で賑わう沖の端から平家落人の六騎伝説が残る

矢留天神宮へと歩き、御花前で16時頃解散しました。この日の午後は柳川の歴史を再発見する楽しいウォークツアーとなりました。

ガイドの古賀さんにみんなが感謝でした！
(筑後川まると博物館運営委員会 鍋田康成)



行き交うドンコ舟



御花前

掘割沿いを歩く



さげもんめぐり



おだんぼセンター前にて

2014年6月5日～6月6日

筑後川143kmの旅 筑後川まるごとリバーパークツアー 実施報告

筑後川143km源流探訪 ミヤマキリシマ咲く「坊がつる」散策を楽しむ

筑後川源流の坊がつるを探訪しました。

6月5日 福岡気象台が「6月2日梅雨入りしたようだ」との発表をしました。出発予定前日から雨で、天候に不安を感じながら霧の中、吉武登山口から大船瀬道を通って坊がつるへ向かいました。緩やかな傾斜を登る林間コースです。霧に濡れた樹木の緑も美しく、目を楽しませてくれました。少し歩き疲れた頃、下山してくるグループに出会いました。みんな足下が黒く濡れていました。

「こんにちは。眠っていますか？」

「今、見頃だけど、ガスっていて残念。雨が来そうだから急いで降りてきた。夢から登るの？」

「今日は法華院泊まりです」

「そう。気を付けて」

すれ違いながらの会話は崖淵でいい。「今、見頃だ」の言葉に元気づけられ、霧の中を黙々と歩きました。坊がつるはガスっていて数メートル先しか見えません。下をぬいて歩いていると登山道わきに鮮く可憐なマイヅルソウを発見。さらにイワカガミも見つけました。ふと目を上げる



霧の中のミヤマキリシマ

と待望のミヤマキリシマが霧の中にも幻のように浮かんで見えました。法華院温泉で汗を流し、パンガロウに泊まりました。

6月7日 朝、まだ晴れ内から多くの登山者が平治岳のミヤマキリシマを目指し動きだしはじめ、長い行列ができていました。明るくなると大船山や平治岳は雲がかかっていてまるっきり見えません。沖積から来たというパーティーが出発した後、行列には加わず平治岳をあきらめ鉢立峠を目指しました。

立中山と白口岳にはさまれた鉢立峠は、かつて法華院の物資を馬で運んでいたところでした。峠に着くとミヤマキリシマが沢山咲いていました。時折、風に流された霧の合間に壮大な白口岳姿を見せてくれました。暑渾です。

坊がつるにもどりゆっくり散策を楽しみました。湿原の緑の中に黄色く咲くリウオウクルマが目立ちました。ハルリンドウ、マイヅルソウ、イワカガミなどの山野草を楽しみながら下山。途中、登っ



鉢立峠から白口岳を望む



リウオウクルマ



イワカガミ



マイヅルソウ

てくる中高年のグループに出会いました。

「こんにちは。眠っていますか？」と聞かれ、「綺麗でしたよ」と大きな声で返事。「足下が汚れていませんね」と聞かれ、「平治岳には登りませんでした」小さな声で答えました。

「綺麗でしたよ」が、登る人たちの勘示になればいいなと悪い気から足を止めた。

〔平田昌之〕



ミヤマキリシマ



法華院温泉山荘にて

2014年5月25日

筑後川143kmの旅 筑後川まるごとリバーパークツアー 実施報告

大川の近代化遺産群ウォークと 組子体験・工房巡りを楽しむ

5月25日の朝、西鉄柳川駅前に参加者12人が集合し、マイクロバスで大川に向かいました。筑後川下流の大川は、かつて若津港の舟運で大いに栄え九州の明治近代化を牽引した地域です。その重要な遺産群の資料が最近地元NPOの本間氏によって新たに発見されました。その貴重な写真などを解説する講演会が、筑後川交流館はなむねであり、これに参加したあと午前中、約1kmその遺跡群を訪ね歩きました。

昼食は地元の老舗料亭三川屋において新メニュー「組子膳」を味わいながら料亭の女将さんの有明海料理や組子膳の楽しい話に聞き入りました。その後、JR九州の豪華寝台列車「ななつ星」の内装に採用されたことで注目の組子工房で職人の技を見学し、肥後街道で地域ボランティアの皆さんの指導で組子体験を楽しみました。(鍋田康成)



組子体験

大川近代化遺産を歩く

組子工房見学

三川屋で組子膳をいただく

本間さんの講演

2014年

筑後川まるごとリバーパークモニターツアー 2014 実施報告

大石堰と大石長野水道ウオークツアー ～開削350年の先人達の偉業をたどる～

涼のように澄みきった秋の空は、似い込まれそ
うに青く高く感じました。

「今日は素晴らしい天気にもまれてよかったで
すね」と口々に言い、大石堰までの田んぼ道を歩
きました。あぜ道にゆれるコスモスと黄豎色に輝
く稲がとくもきれいでした。

この地の稲を育む水は大石堰からのものでは
なく大石堰上流の袋野用水のものです。大石堰
上流の台地へ水を取り入れるために袋野堰・袋野
隧道を完成させた先人達の偉業を、たわむに笑
み顔を見て実感しました。

大石・長野水道の取水口の五庄屋遺跡・水神社
から見る大石堰は、南々と水を湛え静かに流れて
いました。

石張であった大石堰は昭和28年の大水害で崩壊
しました。1663年の大飢饉をさっかか、大石堰
から取水した水を堰の上川まで導水し、堰の上川
の長野堰で水位をあげさらに下流の各地へ導水する
社大なる事業を五庄屋と農長達が実現したのです。

大石取水樋門からの水は大石長野水道へ勢い
よく流れていました。用水路は、350年たった今
もなお現役として機能しています。

秋の景色を楽しみながら大石長野水道沿いに
歩をすすめました。途中、井越川と水路が交差し
ています。当時は、井越川に敷で堰を通り水位を
上げて流していたそうです。ここにも先人達の知
恵がつかかえます。今は、井越川に水路を埋設
し、サイホンで立体交差になっていました。

大石堰にて



五庄屋遺跡
大石堰にて



取水口から水は大石
水道を勢いよく流れる



美しき田舎と水田を
公平に分ける角間天祥



土人の巨匠を祀った長野水神社のイチョウは
色づき始めていました。

かつては、大石水道の水と堰の上川の水を長
野堰で導き上げ、水位を上げて下流へ導水してい
ました。昭和26年の大水害で長野堰は崩壊した後、
堰の上川と長野水神社の下に水路を埋設し、サイ
ホンで堰の上川と立体交差をさせてあります。

角間天祥まで足を伸ばしました。水路の途中に置
かれた3つの石は、流れを調整し、水量を公平に
する大切な役割を持っています。ここにも先人達

の知恵を知ることができました。

大石長野水道の恩恵を受けた筑後平野の穀倉
地帯の田は、黄豎色に輝く稲の顔色のよってまが
しく輝いていました。角間天祥まで歩いたので
急ぎ足でうきは駅へ向
かいました。北尾から
参加した人は、すぐ後
に通過する「ななつ星」
の写真を撮って得られ
ました。[平田昌之]

うきは駅を通過する
ななつ星列車



2014年11月9日

筑後川まるごとリバーパークモニターツアー 2014 実施報告

久留米～筑後川河口・有明海クルーズ

11月9日、筑後川を船に乗って久留米から筑後川河口・有明海沖合いまでのクルージングに、一般参加者含めて約30人が参加しました。有明海までの航海は年に1回のみ。この日一日、川からの景色は参加者の心を癒してくれました。くるめウス下の船着場から出航し、最初の筑後大堰の閘門は、堰を船が通れるようにパナマ運河方式で作った珍しい水路。ここの通過はこのコースのハイライトです。筑後大堰を通過して河口まで多くの橋をくぐり、有明海沖合いまでのゆったりとした船の旅を楽しみました。途中、カモメやカワウが見れました。

午前11時30分頃、大川市の大川橋下の川岸に着岸し、昼食を調達後、有明海沖へ向け出航。ノリ漁場を周遊して、漁師の作業風景を見ました。広大なノリ漁場に参加者一同目を見張り、また、クロツラヘラサギやムツゴロウの姿も見ることができて感激していました。午後3時30分頃、大川市の港へ着岸し下船しました。参加者は有明海の日本一の干満差を身をもって体感できた感動の日でした。(網田康成)



2014年11月30日

筑後川143kmの旅 筑後川まるごとリバーパークモニターツアー 実施報告 (実施: 2014年11月30日)

柿もみじ真っ盛り、栗山備後利安ゆかりの地を歩く

今回のツアーは、黒田官兵衛が頼も信頼した家臣、栗山善助(栗山備後利安)のゆかりの地、熊倉市松木志保地区を訪ねました。

まず、道の駅志保を出発し、標高190mの高山へ向かいました。高山は、その昔、香山とか香山山と呼ばれていたそうです。ここからの展望はすばらしく、筑後川中流域で最も景観が良く、筑後川が美しく見える場所です。広々とした筑後平野を蛇行する筑後川が眼下に、遠方には耳敏山脈が見え、また、眼前に左右良(まであ)城が築かれた麻氏山(295m)が近くに見えます。この麻氏山麓が志保地区です。富有柿の産地でも有名です。

麻氏山麓の柿もみじを見ながら、井上悦久氏(「草書体で解く肥馬合図の謎」の著者)から左

右良を、なぜ「まであ」と読むのか、画道家としての解説を聞きました。高山を下山した所に、大層橋とよばれる大きな橋があります。大層橋は左右良城主栗山利安の子、栗山大膳のことで、後に栗田勝蔵をおこし留岡藩を創ったとされる人物です。この地には大膳にまつわる話もいくつか残ります。その話を聞きながら歩を進めました。収穫を終えた富有柿の赤く染まった葉っぱが小川に流れ、実にきれいでした。小川だったのに、龍光山円通寺についた時には、本流になっていました。

黒田官兵衛(龍水)の首領を率うために栗山備後利安が建立した寺が龍光山円通寺です。寺では官兵衛、長政、栗山利安の肖像画や園内蔵古のものと言われる朝鮮羅(国重要文化財)、栗山利安の墓、大膳が退治したとされる大蛇の甲羅を見ました。また、おしどり組合の話も興味深く聞きました。雨が強くなりフーテン・ダンスを中止することになりました。麻氏山麓のことがらを感じたので、希望者だけで左右良城跡の碑のところまで行ってきました。(平田昌之)



柿もみじ



栗山備後利安の墓



麻氏山と円通寺



山から見た筑後川の蛇行



高山を下る

2015年10月1日～10月3日

筑後川143kmミステリーツアー 筑後川の魅力をいっぱい発見できた旅でした

上流から河口まで143kmの筑後川魅力発見の旅を、ミステリーツアーとして実施しました。
どこに行くのかが何が起こるのか秘密、10月1日～3日2泊3日ときどきわくわくの旅でした。

雨・強風・濃霧の過激域ツアーでした

「私、雨女なんです」北名古屋市から旅行バスで参加されたNさん。小雨だったのが出雲して間もなく本降りになりました。秋の戸時は濃霧が私どもを運んでくれました。「僕はロマンチックでいいよ」ミステリーツアーだ。不安と期待、わくわくするね」と別府から参加したFさん。雨の中を下城の大滝、鍋が滝、竜門の滝、夢の大吊り橋と震動の音などを運りました。夕食時、再び別荘の園が裏を囲んで、豊後牛、納、生鮮魚、手羽先などの伊勢焼き、馬肉や鶏の足の煮付けを肴に酒で交歓会。筑後川の魅力について語り合い、大いに盛り上がりました。万年山温泉別荘泊。

昨日とは打って違って快晴、秋晴れツアーでした

皇路の里 玖珠町では、豊後杵臼橋や三島公園、奇岩絶壁が連続する東車馬場の代表地である「立羽田の戦い」に参りました。あどけな山道の緑に染いたような風景に感動。近くに町国の武将・後藤又兵衛が隠れ住んだ場所といつ「かまどが壺」がありました。大きな岩の割れ目で少々不気味な雰囲気

がでしたが魅力ある所でした。

重要文化財指定されている小倉田橋の里で、「ギニー、ゴットン」と書きわたるのどかな調子の音を聞きながら小倉田橋の作景を見て回りしました。小倉田橋のルートである民路の木・小石等へ足をのびしました。小石原田山は筑後川支流の大瀬川と小石原川の源流でもあり、筑後川源流の碑を設置しています。矢野山の修験者たちが増えたという行者の杉の巨木群、中でも樹齢1200年という大干杉(行者の杉)には圧倒されました。

黒田六郎城の一つである松尾城跡に登りました。「ここは天空の山城」とFさん。

下流域の野間橋温泉で汗を流し、大川の三ノ田に泊りました。天無うなぎ、くつせこの煮物、わけ(イソギンチャク)など郷土料理に舌鼓を打ちました。大川本家監の人たちの話を聞いて夜の大川も楽しみました。

筑後川河口へのクルージング観賞でした

「早朝、昇陽橋から導遊船がよく見えるよ」の声に起こされて見に行きました。その後、1800年余りの歴史を持つ国営宮津で宮崎さんの話を聞い



た後、技と心で作る大川 龍子も見物。細密な技法で作られた龍子、見る方向や光源の具合で表情が変わることに感嘆しました。ツアーの目玉は河口までのクルージングです。世界遺産登録の三重津海軍所跡に、船を横付けし、見物しました。船中で吟味エッセの平細と大ラズミがふるまわれました。天気よく快適な船旅でした。「船上から見る筑後川の風景もいいですね」と城玉から参拝したMさん。ざんげにシャッターを切っていました。



大川市立清力美術館、全国にある水天宮の御本宮である水天宮、梅林寺、高良大などにも参りました。新宮園芸のカーパで解散会をしました。北名古屋のNさんは「朝晩に楽しく、あつという舞の3日間でした。美味しくかつ珍しい食事は食いました。私の旅の冒険をこころゆくまで満足させてくれました。ミステリーツアーならではの場所にもたくさん案内していただき、心に強く残る旅となりました」の感想を寄せてくれました。(平田昌之)

2015年12月2日

筑後川まるごとリバーパークモニターツアー 報告

天下の奇祭 おしろい祭りと燻製づくり

「アッハッハ!」「キヤーッ!」日頃は、谷川のせせらぎしか無い静寂な境内から賑やかな笑い声と悲鳴が聞こえる。氏子たちの真っ白になった顔をお互いに見合わせて大笑い。参拝客の顔にもおしろいが塗られた。悲鳴の後、笑い声が広がる。

新米を粉にして水で練った「しとぎ」をおしろいとして顔にぬる。その「しとぎ」のつき具合で豊作を占う奇祭「おしろい祭り」が12月2日、朝倉市杷木大山祇(おおやまずみ)神社であった。

厳かな神事後、押しずしや吸い物などと御神酒で氏子たちの直会が始まる。酔いが回ってきた頃、氏子たちは新聞紙に穴を開け雨よけポンチョのようにかぶる。ある氏はゴニール風呂敷を前掛けにした。服が汚れないための防御だ。「しとぎ」を持った氏が後ろから顔にたっぷり塗りつける。目も開けられない、息もできない。顔からしとぎがしたたり落ちる。宮座に座った全員が真っ白な顔になった。

お互いの顔をみて大笑い。自分の顔をスマホで撮って見てまた大笑い。

静かな里山に笑い声がこだました。家に帰り着くまでおしろいを落としてはならないとの言い伝えがある。久留米までマスクをはめて電車で帰った参加者もいた。きっと御利益があるに違いない。

江戸時代から伝わる素朴な祭りのクライマックスまでの時間を2000年公園で、ダンボール箱を使って鶏の燻製づくり体験をした。鶏の燻製のサラダと新米のご飯と豚汁を美味しくいただいた。

「今日は大満足の日だった〜!」と参加者。(平田昌之)



2016年3月27日

▶ 筑後川まるごとリバーパークモニターツアー ▶ 実施報告

朝倉・夕月神社の桜まつりと奇祭 泥打ち祭りをめぐる

3月27日、夕月神社の桜まつりと泥打ち祭りをめぐるツアーを実施した。2000年公園でよもぎ餅づくりを体験。夕月神社の桜まつりを楽しんだのち阿蘇神社に向かった。

「打てー！打てー！」代宮司の両脇をささえる若者の声が響く。12名の氏子のこどもたちが一斉に泥を投げつける。泥は参拝者の方にも飛んでくる。悲鳴と歓声、笑い声が静かな鎮守の杜に響く。朝倉市杷木穂坂阿蘇神社の泥打ち祭りだ。代宮司は祭り当日、地区住民の氏子よりくじ引きで選ばれる。直会では大盃で酒をたらふく飲まされる。その後、白装束に白頭巾と白ずくめの姿で宮司からお祓いをうけ、神社前に盛られた神田の泥土の中に座る。氏子のこどもたちが一斉に泥土をぬりつける。泥まみれになった代宮司の両脇を若者が支える。

獅子が先導する。酔いと、泥の重さでよろけながら500m先の道祖神まで御神幸をする。代宮司に泥が多くつくほど豊作だという。江戸時代から続く豊作を願う農民たちの素朴な祭りだ。

「打てー！打てー！」の大声がかかる。こどもたちは喜々として泥を投げた。

「この祭り面白〜い。代宮司は“ゲゲゲの鬼太郎のねずみ男”みたい」と参加者の感想。

穂坂の阿蘇神社には大ナマズの石碑が奉納されている。昔、地震は地下でナマズが暴れると起こると言われていた。

「地震災害が起きませんように」との祈りをこめたのかも知れない。

熊本地震で崩壊した熊本阿蘇神社はこの神社の総本社。一日も早い復旧を願う。(平田昌之)



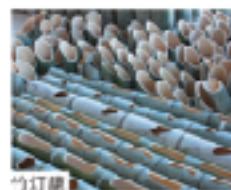
2016年10月10日～10月11日

筑後川まるごとリバーパークモニターツアー 実施報告 実施日/10月10日・11日

筑後川中流域ミステリーツアー

福岡からJRゆいん森の号で日田駅に到着した5人のグループを案内致しました。

日田市の花月川や重要伝統的建造物群保存地区に指定されている豆田町周辺で、約3万本の竹灯籠で幻想的に彩る「千年あかり」の竹灯籠準備作業所で竹灯籠づくりを見学しました。そこで「千年あかり」準備の大変さを実感しました。



竹灯籠

その後、サッポロビール工場を楽しく見学し、午後はうきは市へ。うきは市には、石室の壁に図文を描いた装飾古墳が多くあります。日岡古墳・月岡古墳・珍敷塚古墳代表的な国指定史跡の古墳めぐりをしました。特に、月岡古墳は出土した鉄器や珍敷塚古墳の船や船先にとまつた鳥、太陽や月、ガマガエルなどを描いた壁画など、見張るものがありました。

今回のツアーは、筑後川中流域源流の碑を訪ねることも目的にしていたので、昨年度、(一社)北部九州河川利用協会がうきは市巨瀬川の源流に設置した筑後川源流の碑へ向かいました。調査の簿の池に千ヨウザメが泳いでいるのにびっくり。「うきは産キャビア」を名産にと養殖がされているそうです。筑後川沿いの原鶴温泉六峰館のお湯と美味しい料理とお酒を楽しみました。

次の日は、東峰村小石原に設置された大肥川と小石原川の源流の碑と、遠賀川の源流の碑を訪ねました。途中、

市民団体「朝倉市に小水力発電を進める会」が手作り水車のマイクロ発電で地域づくりに取り組んでいる白木発電所を訪れました。小さな山里の小さな取り組みですが、地域の人たちの「夢」を感じました。近くの林温産さんの梨園で朝倉市産水産物特産の梨狩りを楽しみました。



白木発電所

今回のツアーのハイライトは、建設中の小石原川ダム工事現場の見学です。小石原川ダムは、洪水被害の軽減、水道用水の確保、漏水対策として江川ダムの上流に建設が進められています。堤高139m、総貯水容量4千万㎡のロックフィルダムだそうです。水資源機構の方の説明を聞き、現地へ。大きく切り開かれた谷の大きさには圧倒されました。

今回のツアーは、なかなか見れない工事現場や古墳内部、また源流の碑や知り得ない市民団体の活動、特産品「梨」の収穫体験などができ楽しかったと感想を述べられました。(平田昌之)



大肥川・小石原川源流の碑



小石原川ダム工事現場

2019年1月14日

いく旅なっ得。
旅物語

筑後川143km
ウォークツアー

第1回 河口(柳川市)～昇開橋(大川市)

第1回目は1月14日「有明海の日本一の干満差を体験し筑後川下流域の明治近代化の息吹を感じる旅」をテーマに実施した。福岡、久留米から集まった参加者20人はひたひたと潮が満ちる中、河口0km地点を朝10時にスタートし、上流の昇開橋へ向けて約11kmを歩いた。この日は快晴で北部九州4県の山並みが周囲を囲み、有明海の向こうに雲仙普賢岳も望めた。筑後川の真ん中に築かれた明治期の土木遺産・レーケ導流堤を見ながら、新田大橋を渡り、佐賀県側にある世界遺産の三重津海軍所跡を訪れ、国指定重要文化財・筑後川昇開橋を大川市側に渡って午後3時半頃に歩き終えた。ガイドはNPO法人大川未来塾の本間氏が務めた。

(記事／鍋田康成)



昇開橋を渡る



筑後川河口を歩く



新田大橋へ向けて歩く



2019年2月24日

第2回 昇開橋(大川市)～城島～大善寺玉垂宮(久留米市) 実施報告

第2回目は2月24日「川と水のテーマパーク・筑紫次郎筑後川～歩けば出会う独特の環境・歴史・伝統産業」をテーマに実施した。福岡、久留米から集まった参加者21人は大川市の筑後川昇開橋をスタートし、暖かい春の日差しの中を、久留米市大善寺玉垂宮へ向けて約15.5kmを歩いた。広大なヨシ原が続く筑後川下流の独特の景観を見て、河川敷にヤギの一家がのんびりと草を食む様子に驚きながら、大川市立清力美術館から、旧大川鉄道軌道跡の遊歩道を歩き、城島町の酒蔵の街並み、三潯町の由緒ある弓頭神社などを訪ね、午後3時すぎにゴールに着いた。ガイドは1回目と同じ本間氏と筑後川まるごと博物館の鍋田が分担して務めた。

(記事／鍋田康成)



城島酒蔵の町並みを歩く



城島の広川沿いを歩く



ゴール大善寺玉垂宮へ



大善寺の田園地帯を歩く

2019年3月23日

旅物語 筑後川143kmウォークツアー 第3回 大善寺玉垂宮～筑後大堰～水天宮～篠山城～くるめウス(久留米市)

2019年1月から筑後川流域連携倶楽部と筑後川まるごと博物館運営委員会では、JTB旅物語と協力して筑後川ウォークツアー「筑後川河口から遡流143kmを歩いて巡るシリーズ」を実施しています。全行程143kmを10回にわけて10か月かけて歩く旅です。車で通りすぎるだけではわからないことが、歩くことにより次第に見えてきます。

第3回日は、3月23日「筑紫次郎のガイドと歩き、古代から近代の歴史を知る」をテーマに実施しました。

晴天に恵まれたなか、福岡市や久留米市周辺から集まった10人の参加者は久留米市の大善寺玉垂宮を朝10時にスター

トし、筑後川助成施設くるめウスへ向けて全行程約13kmを歩きました。このコースはほぼ平坦で大部分が川沿いを歩き、広々とした筑後平野をゆったりと流れる筑後川とどこか田園風景を楽しみました。1500年の歴史を刻む大祭り・鬼夜で有名な大善寺玉垂宮をスタートして、古代豪族の墓と伝わる御塚墓群・古墳を横目に、有馬藩の旧河港・住吉から旧筑後川を越え佐賀県境をまたぎ筑後大堰まで香の花が咲くのかな風景の田園地帯のなかを歩きました。

筑後川堤防沿いに進んで豊津橋を渡り、全国津本宮水天宮に着いて昼食休憩としました。水天宮ではこの日、灯明まつり

のイベントで賑わっていました。さらに、久留米藩主有馬氏の菩提寺である梅林寺、有馬氏の居城久留米城跡(篠山城)などを訪ね、午後3時すぎにゴールのくるめウスに着きました。

今回の歩く道は、古代から幕末近世にいたるまで筑後地方で活躍した歴史上の人物のその真跡をたどることができました。久留米城跡や百年公園の堤防沿いでは桜が咲き始めていて、春を満喫することができました。

この日のガイドは、筑後川まるごと博物館運営委員会の学芸員・鍋田が務めました。

